

からだのとしょかん通信

分かりやすい医学情報を集めた「からだのとしょかん」は
外来棟2階にあります。気軽にお立ち寄りください。

2024年11月号

顕微鏡で見るミクロの世界

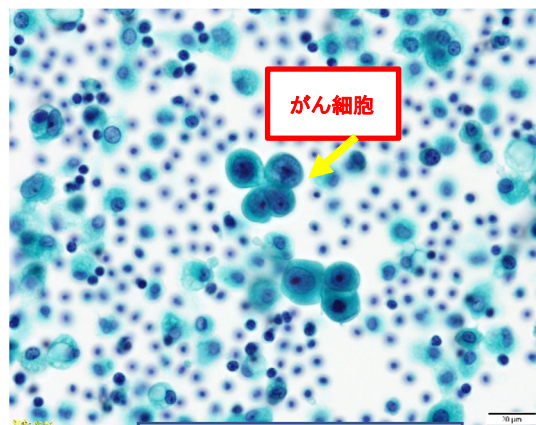
病理検査室

病理検査ってご存じでしょうか？あまり聞き慣れない検査かもしれませんが、それもそのはず、病理検査は院内の端っこで仕事をしているからです。

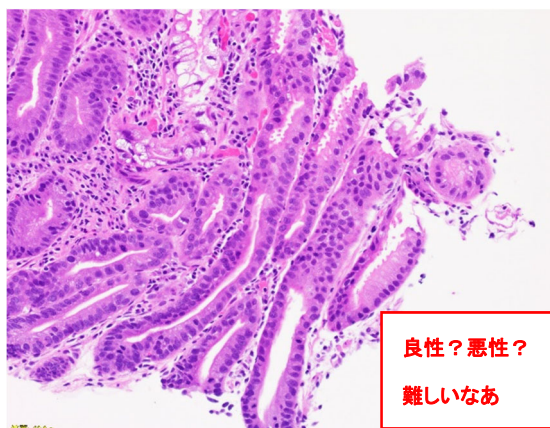
そんな病理検査には大きく分けて「組織診」と「細胞診」があります。「細胞」が多く集まって塊となっているもの（細胞の集合体）を「組織」と言います。組織や細胞はそのままでは無色なので、色を付けて顕微鏡で観察できるように「病理標本」という形にします。病理標本は、病理医や細胞検査士が顕微鏡で観察します。では、実際に顕微鏡の中の組織や細胞はどのような形態をしているのか見てみましょう。



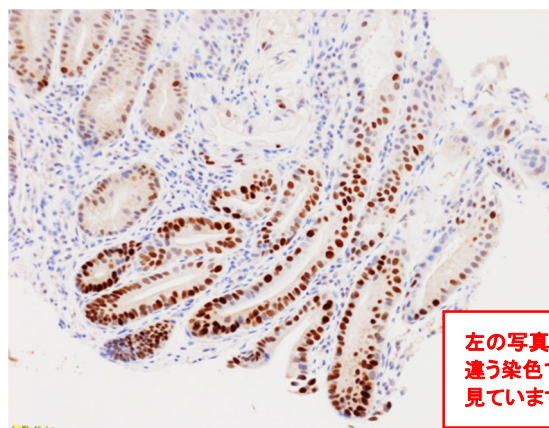
診断用顕微鏡



胸水の細胞(細胞診)



胃の組織(組織診)



胃の免疫染色

人間の体は何十兆個もの細胞からできており、細胞の大きさは臓器によって様々ですが、病理検査で使用する顕微鏡は髪の毛の直径より小さな細胞も観察が可能で、まさに「ミクロの世界」です。顕微鏡を使って組織や細胞の形や大きさ、構造などを見て、良性や悪性、転移の有無などを判断します。

しかし一般社会と同様で善良そうな患者、怖そうに見えて優しいなど、一見して良し悪しがわかりにくい組織や細胞があります。そのような時は、さらに別の着色（免疫染色）で見ていきます。免疫染色は組織や細胞の性状を、より詳細に調べるための方法で100種類以上の使い分けが可能です。

こうして導き出された診断で、外科や内科の先生が手術方針や治療薬の選択を決定します。このように、病理検査では日々組織や細胞と真剣に向き合っています。

企画展示コーナーのご紹介

からだのとしょかんでは、新潟県立図書館の協力を得て企画展示コーナーを設けています。
テーマと本の内容はおよそ2か月ごとに入れ替わります。
現在展開中のコーナーを紹介します。

11・12月「おりがみの日」(12/11(水)まで)



気軽に楽しめるものから、本格的なものまで揃えております。
どうぞ、ご利用ください。

次回の展示もお楽しみに！

からだのとしょかんでの情報の探し方 🔍

からだのとしょかんでは、本や雑誌、パンフレットなどさまざまな資料を提供しています。
本の探し方や情報の調べ方について紹介します。

📖 どんな本があるか調べたい

- 💡 からだのとしょかんにある本を、Web サイトで公開しています。
右の二次元コードを読み取ってアクセスできます。

蔵書一覧 (ブックログ)
<https://booklog.jp/users/karadatosho>



📖 病気について、新しい情報を知りたい

- 💡 新しく入った本は「新刊コーナー」にあります。
雑誌の最新号やパンフレット、インターネットもご利用できます。

📖 医療、健康以外の本も読みたい

- 💡 各病棟のデイルームとからだのとしょかんに娯楽書の文庫「あかね文庫」があります。
小説や漫画などがおよそ一万冊ありご自由に利用いただけます。
本棚はボランティアにより定期的に入れ替え・整理をおこなっています。